

事業の概要

令和3年度は嵐山地区に取得した土地に利用者の高齢・重度化に対応する日中支援およびグループホーム施設完成に伴い、4月27日竣工式を行い、新たな事業展開に向けてスタートした。

一方、新型コロナウイルスに関しては、前年度に引き続き法人内各拠点事業所運営にあたり事業にも大きな影響を及ぼした年度となった。特に令和4年2月から3月にかけて、陽性者並びに濃厚接触者が頻発しなづな、かしの木両学園に於いては、施設サービスの利用自粛期間設定する事となり、その対応と致しましては、理事長を座長にその都度、対策会議を開催し対応にあたった。状況に関しては、本部よりメール等で役員の皆様および職員・利用者各位に周知し、法人としての対処策を共有した。

各拠点事業所状況に関しては、それぞれの事業所より報告しますが、日中支援事業は、なづな学園（生活介護と就労継続支援B型の多機能型事業所）、かしの木学園（生活介護、就労移行、就労継続支援B型の多機能型事業所）それに加え新たに、すずしろ（生活介護）の3拠点での日中支援サービス提供を実施。

昨年度に引き続きコロナ禍での事業運営でしたが、就労支援事業収入としては前年度比でなづな学園は、かしの木学園より引き継いだ清掃業務収入もあり125.7%、かしの木学園は、嵐山地区における調理収入もあり128.5%と令和元年度には及ばないものの、回復の兆しが見える1年であった。

グループホームについては、ホームあらしやまでの入居者が計画より早い段階で定員運営の運びとなり、安定した運営が出来ている反面、ホーム花園に於いては、嵐山地区へ移籍された後の対応が順調とは言えず、次年度の課題となっている。

ふらっぷについては、昨年度に引き続きコロナ禍における影響が大きく運営に影響を及ぼした1年となった。特に、緊急事態下での活動自粛で移動支援がニーズに対応出来なかったことが大きな要因と考えます。

人事労務面

採用	令和3年度は常勤職員として、男子3名、女子3名を採用した。
退職	令和3年4月末に男子1名女子1名、令和4年3月末に女子4名が各自己都合で退職。
昇給	職員処遇面では、令和3年4月に定期昇給を実施。
(施設)センターの創設	複数施設を統括する2センターを設け、各センターにセンター長を配置し、各施設の有機的連携や業務の効率化を図る。
管理補佐職職位	センター化に伴い、センター長・施設長を補佐する『管理補佐職』を設け、施設運営・管理の充実化と効率化を図り、同任命職員の管理職スキルの向上を目指す。 管理補佐職には、係長・主任職位より選任し任命、業務手当（¥20,000/月）を支給。
管理職層研修	次代の管理職・管理者育成を目的に、係長・主任職位の職員を対象に研修を実施（7回/年）、R04年度も引き続き実施予定。

職員処遇面

令和3年度は新型コロナの影響が不透明でありましたが、従来通り定期昇給を実施。処遇改善加算は前年度比93.5%と減少した。還元策としては常勤支援員については従来同様に基本給に1万円加算し、残りについては、年2回一時金として支給。非常勤支援員・世話人・登録ヘルパーについては、従来同様に時給に100円の加算を行い、年2回一時金として支給し処遇面での充実を図った。特定処遇改善加算については、配分・支給額を変えて常勤職員、非常勤職員に還元した。

特定処遇改善	配分方法がR03年度より変更(国の施策変更)となったことから、	
	・常勤職員：	【資格保有+経験年数】に応じて3区分し、 月にそれぞれ8,000円、5,000円、3,000円を支給。
	・非常勤職員：	【資格保有+経験年数】に応じ、 半期ごとの支給でR03.12月に80円/時間で支給。
処遇改善臨時特例支給 (R04.2~R04.9、 R04.10以降は別途 法制化される予定))	【福祉・介護職員の処遇改善・臨時特例支給】に関しては、 R04年2、3月分相当をR04.3月に一時金として、	
	・常勤職員：	一律1万円
	・非常勤職員：	就業時間に応じて配分・支給を行った。
	なお、R04.4以降は(国の施策方針に従い)“ベースアップ”として、	
	・常勤職員：	(管理者等を含め)は基本給に一律5,000円の加算(Up)
・非常勤職員：	基本時給に35円/時間の加算(Up)	
とすることで職員に還元する。		
夜間勤務の手当	グループホームホームの常勤職員の勤務において深夜勤務(22:00~翌5:00)に 就いた者に対し、深夜勤務手当として1回の勤務につき3500円を支給	
年末年始手当の創設	グループホームで年末年始休暇中に就労する職員への慰労と感謝の意味で、 年末年始手当を創設・制度化し実施した(給与規定の改定はR04.04.1の予定)。	
	手当計算式：【当該職員時給(換算値)×年末年始休暇期間中の総勤務時間※×0.35】	
	(※年末年始休暇期間中の総勤務時間：シフト勤務の所定労働時間の内数)	

職員処遇改善助成金

区分	事業所	助成額(円)	※臨時特例支給 R4年2月3月分
令和3年度上期 (4月~9月)	なづな学園	1,612,203	計¥901,364
	かしの木学園	2,346,903	計¥1,274,954
	ふらっふ	3,485,455	計¥372,160
	わかな	1,139,000	計¥355,121
	グループホーム	2,214,738	計¥717,144
	Hあらしやま	1,772,227	計¥802,028
	すずしろ	620,155	計¥530,136
	上期計	13,190,681	臨時特例支給合計¥4,952,907
令和3年度下期 (10月~3月)	なづな学園	2,293,236	
	かしの木学園	2,146,100	
	ふらっふ	3,385,290	
	わかな	1,032,480	
	グループホーム	2,055,842	

	H あらしやま	2,770,645	
	すずしろ	983,552	
	下期計	14,667,145	
令和3年度	年関計	27,857,826	令和2年度年度対比 109,8%
令和2年度	年関計	25,378,817	

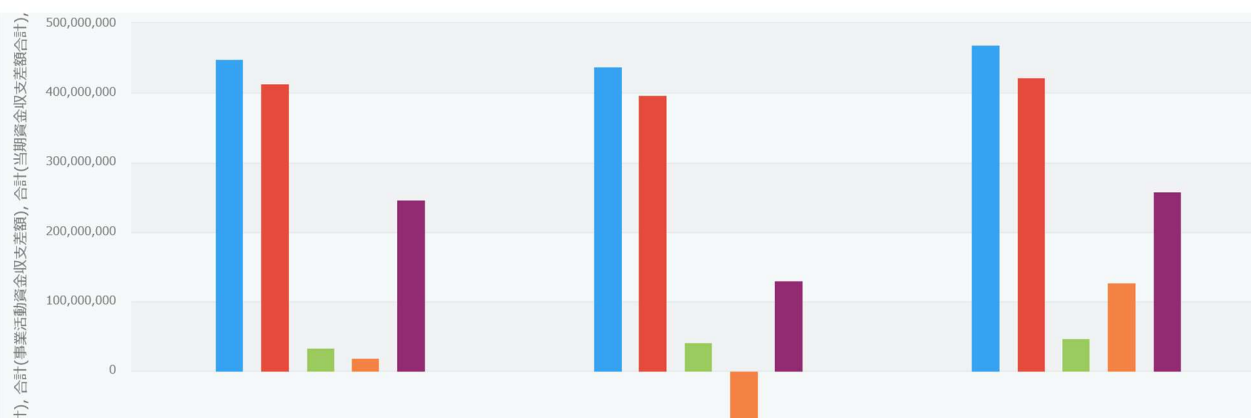
福利厚生面

1か月単位の変形労働	グループホームあらしやまの開設に伴い、同施設運営の柔軟性と従事する職員の心身の健康維持を目的に、ホームあらしやまに1か月単位の変形労働を適用
子看護・介護休暇の時間単位取得	従来の1日単位の取得に、1時間単位の取得を可能とした。
パワハラ防止規定	改正労働施策総合推進法の施行に伴う措置として、就業規則に規定を設けた。 (R04.4以降でマニュアル化・社労士への窓口設定を計画予定)

令和3年度決算

法人全体でサービス活動収益は472百万円（前年比108.7%）、サービス活動増減差額は+1,372万円（前年比49.0%）となった。事業所別サービス活動増減差額は嵐山事業所の立上りも順調であり、全ての事業所でプラスでした。また、3年度決算に基づく社会福祉充実残高は△144百万円（前年度△284百万円）で計画の策定は不要となったが、地域における公益的な取組については引き続き積極的に実施していく。

(図) 事業活動収支推移 凡例青色 収入 朱色 支出 緑色 収支差額 橙色 その他活動収支 紫色 資金残高



令和3年10月1日に京都市による指導監査が平成30年10月22日以降3年振りに実施され、法人に関する経理及び業務管理について監査を受けました。若干の口頭指摘を受けたものの文書指摘は無く、おおむね適正な事業運営がなされているとの評価を受けた。監査後、法人内部会議並びに理事会への報告を通して運営の改善に取り組み事となる。

業 務 報 告

1. 理事会・評議員会及び監査の実施

(1) 理事会の開催

開催日	議案等	内容	結果
令和3年 6月4日 対面開催	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 報告事項 報告事項	令和2年度事業報告について 令和2年度決算報告について 定款変更について 運営規程の改定について 次期理事・監事・評議員・評議員選任・解任委員の選任 定時評議員会開催の決議 評議員選任・解任委員会開催の決議 嵐山の事業所に関する報告 ホームなづな移築に向けての報告	承認 承認 承認 承認 承認 承認
6月21日 対面開催	第1号議案 第2号議案 第3号議案 報告事項	理事長の選任について 施設整備等積立資産の再積立について 就労規則等の改定について なづな学園の土地賃貸借に関して	承認 承認 承認
8月6日 リモート開催	第1号議案 第2号議案 第3号議案 報告事項 報告事項	なづな学園の敷地への地上権設定について 就業規則等の改定について ホームなづな建替の方向性について 理事長職務執行状況報告 コロナ接種に関する状況報告	承認 承認 承認
令和4年 2月22日 リモート開催	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 報告事項 報告事項 報告事項 報告事項 報告事項	令和3年度第1次補正予算(案)について 役員等報酬規程の改定について 役員賠償責任保険契約及び関連する定款変更について クレジットカード利用規程(案)の制定について 経理規程の改定について 評議員会開催の決議について 年未年始休暇中、給与(手当)取り扱い報告 理事長職務執行状況報告 令和3年度法人監査結果報告 ホームなづな移築検討会議経過報告 福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金に関する報告	承認 承認 承認 承認 承認 承認
3月23日 リモート開催	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 報告事項 報告事項	令和4年度事業計画について 令和4年度当初予算(案)について 役員賠償責任保険契約の更新について 評議員会開催の決議について 職員の退職、異動、採用についての報告 ホームなづな老朽化に伴う整備について	承認 承認 承認 承認

(2) 評議員会の開催

開催日	議案等	内容	結果
令和3年 6月21日 定時評議員会 対面開催	第1号議案 第2号議案 第3号議案 報告事項	計算書類及び財産目録の承認について 理事・監事の選任について 定款変更の決議について 令和2年度事業報告について	承認 承認 承認
令和4年 3月3日 決議の省略	第1号議案 第2号議案 第3号議案 報告事項 報告事項	令和3年度第1次補正予算(案)について 役員等報酬規程の改定について 役員賠償責任保険契約及び関連する定款改定について 理事長職務執行状況報告 令和3年度法人監査結果報告	承認 承認 承認
3月29日 決議の省略	第1号議案 第2号議案	令和4年度事業計画(案)について 令和4年度当初予算(案)について	承認 承認

(3) 監査の実施

実施日	令和3年5月24日
監事名	東 監事、小坂監事
監査項目	令和2年度事業に係る理事の業務執行状況、法人の財産管理状況、法人及び施設の業務執行状況、法人及び施設の会計状況、その他の状況について実施
監査結果	監査項目に対しすべて適正、指摘事項なし、総括(認定)

(4) 評議員選任・解任委員会

実施日	令和3年6月14日
監事名	外部委員木村氏：監事委員東氏：事務局員南：出席理事安田、八田理事
議案	評議員の選任に関して
報告事項	評議員選任・解任委員の委嘱について 退任評議員の紹介

2. 会議・研修・行事等の開催状況
資料記載の通り

3. 職員の構成

(1) 常勤職員 週5日勤務者

① 事業所別

令和4年3月31日現在

事業所	施設長等	主任以上	支援員	事務員	計
本部	0	1	0	0	1
なづな学園	1	1	9	1	12
かしの木学園	1	2	12	1	16
ふらっふ	(1)	2	6	0	8(1)
わかな	(1)	1	2	0	3(1)
グループホーム	(1)	2	1	0	3(1)
すずしろ	(1)	1	6	0	7(1)
相談支援	(1)	0	(9)	0	(10)
人数計	2(5)	10	36(9)	2	50(14)

但し、上記人数には休業者4名を含む。

② 職員区分別

令和4年3月31日現在

正職員	嘱託	有期契約	計
47	2	7	56

③ 新規採用者と退職者

令和3年度

	正職員	嘱託	有期契約	計
新規採用	2	0	0	2
退職者	4	0	0	4

新規採用は、R4年4月1日付を含む

④ 非常勤職員

令和4年3月31日現在

事業所	非常勤職員						合計
	世話人	ヘルパー等	支援員	その他	嘱託医	看護職員	
本部	—	—	—	6	—	—	6
なづな学園	—	—	9	—	1	1	11
かしの木学園	—	—	13	—	1	1	15
ふらっふ	—	22	2	—	—	—	24
わかな	—	9	1	—	—	—	10
グループホーム	60	—	—	—	—	—	60
合計	60	31	25	6	2	2	126

4. 定款・規程等の制定・改定

名称	理由	施行日
運営規程	<ul style="list-style-type: none"> ・なづな学園・かしの木学園緊急時(コロナ含む)利用者在宅支援追記 ・ホームあらしやま指定短期入所利用料金改定 	R3.4.1

就業規則改定	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山地区1ヶ月単位変形労働時間制適用 ・ホームあらしやま深夜割増手当含む夜勤手当 ・施設管理者に対し業務手当支給 ・処遇改善Ⅱ、特定処遇改善条文追加 ・育児、介護休暇1時間単位取得 ・ハラスメント防止 	R3. 4. 1
就業規則改定	・育児・介護休業等に関する規程に照らし合わせて改定	R3. 4. 1
定款変更	・嵐山地区基本財産の追加	R3. 8. 5
役員報酬規程改定	・評議員会、理事会、評議員選任・解任委員会の費用弁償に関して	R3. 10. 1
経理規程改定	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山地区におけるショートステイ ・クレジットカード利用規程制定に伴う条文の見直し 	R3. 10. 1
クレジットカード規程及び細則	・新規制定	R4. 3. 1
定款変更	・定款第43条および第44条の条文に定められている「引用条文」の変更	R4. 3. 31 条文変更届

5. 寄付金・補助金等の取得状況

(1) 寄付金

単位：円

寄付者の属性	区分	件数	金額	拠点区分
その他	経	3	30,000	なづな学園・嵐山
現役職員	経	2	400,000	本部
旧職員	経	1	10,000	なづな学園
利用者家族(保護者会)	経	2	3,000,000	本部・嵐山
利用者家族	経	1	1,000,000	本部
利用者家族	経	3	138,000	なづな学園・嵐山
令和3年度計	経	12	4,578,000	前年度比(40%)
令和2年度計	経/施	5	11,320,000	前年度比(109%)
令和元年度計	経/施	12	10,408,000	前年度比(241%)

区分欄の「経」は経常経費寄付金収益、「施」は施設整備寄付金収益

(2) 補助金等

単位：円

交付団体および交付の目的	区分	交付金額	拠点区分
京都労働局 キャリアアップ助成金	障	1,724,000	本部
京都市 東山区まちづくり支援事業助成金	障	138,000	なづな学園
京都市就労継続支援B型工賃補償補助金	障	2,454,197	なづな学園、かしの木学園
京都市重度障害者利用事業所支援補助金	障	909,000	なづな学園
京都府 民間社会福祉施設サービス向上補助金	障	1,650,000	かしの木学園
東山区 社会福祉関係団体事業助成金	障	50,000	なづな学園
京都新聞 障害のある人たちを応援助成金	施	150,000	なづな学園

読売新聞 コロナ禍福祉作業所助成金	施	500,000	かしの木学園
令和3年度計		7,575,197	前年度比(8%)
令和2年度計		98,852,936	前年度比(1715%)
平成元年度計		5,762,874	前年度比(116%)

区分欄の「障」は障害福祉サービス等事業、「施」は施設整備等事業
令和2年度は、嵐山建設に係る施設整備補助金(83,150,000円)を含む

6. 設備改修・備品取得の状況

科目	内容	金額(円)
事務消耗品費	ノートパソコン(5台)	499,950
	フォームブリッジ(買取ソフト)	75,240
その他の委託費	勤怠管理システム 年間サポート料	132,000
保守料	パソコン5年間保守費(8台分)	248,446
	弥生給与 サポート料	49,720
賃借料	会計システム年間使用料	620,400
	給与勤怠システム年間使用料	390,060
	コピー機リース料負担金	401,500
手数料	グループウェア(Desknet's)使用料	369,600
	Kintone 使用料	465,300
	ライセンスユーザー年間更新料	145,717
	プリントクリエイター	92,400
合計		3,490,333

固定資産	ノートパソコン(3台分)	319,110
	ホームページ作成料	294,800
合計		613,910

7. その他

令和3年4月1日なづな学園土地地上権設定に伴い、賃借契約を締結しました。

- ・地上権存続期間 契約締結日より30年間
- ・契約地代 年額130万円
- ・賃借料拠点配分

事業所	金額
なづな学園	100万円
法人本部	15万円
GHなづな	10万円
GHななくさ	5万円

資料1 会議・研修の開催状況

月	会議	行事	研修会等	その他
4月	事業推進会議（2回）	辞令・入職式(3/31)	介護安定センター会議	嵐山建屋引き渡し(4/2) 嵐山竣工式(4/27) コロナ緊急事態宣言発出 4/25
5月	事業推進会議（3回）	監事監査(5/24)		ホームイースト検討会議(5/19)
6月	事業推進会議（3回）	令和3年度障害福祉サービス事業者等に係る集団指導（書面開催） 理事会(6/4) 選任・解任委員会(6/14) 理事会・定時評議員会(6/21)	管理者層研修(6/24) 主任会議(6/8)	ホームイースト検討会議(6/16) ガイヘル研修(6/19/20) 就職フェア(6/27)
7月	事業推進会議（4回）		管理者層研修(7/30)	入職試験(7/21)看護師 ホームイースト検討会議(7/21)
8月	事業推進会議（2回）	理事会(8/6)初リモート開催	管理者層研修(8/23) 主任会議(8/24)	地上権設定契約書締結（進直子さんと法人）
9月	事業推進会議（3回）		管理者層研修(9/17)	ホームイースト検討会議(9/1/15) Kintone 説明会(9/27) 京都市推進室GH面談(9/29)
10月	事業推進会議（4回）		管理者層研修(10/27)	法人監査(10/1) ホームイースト検討会議(10/13)
11月	事業推進会議（2回）		管理者層研修(11/26)	ホームイースト検討会議(11/4/12/19/25) ガイヘル講習(11/27/28) 田中理事を囲む会(11/26)
12月	事業推進会議（3回）			

R4 1月	事業推進会議（4回）		管理者層研修(1/21)	入職試験(1/7) 大晋設計プロポーザル(1/14)
2月	事業推進会議（1回）	理事会(2/22)	管理者層研修(2/18)	入職試験(2/9) 京都市推進室GH面談(2/15) 時期嘱託医吉川医師訪問(2/28)
3月	事業推進会議（4回）	評議員会(3/3)文書決裁 理事会(3/23) 評議員会(3/29)文書決裁	管理者層研修(3/10)	入職辞令式(3/1) 就職フェア(3/6) ホームイースト検討会議(3/17) 嘱託医吉川医師契約(3/28) 離職辞令式(3/31)

1. なづな学園

令和3年度は、利用者に関しては、4月に1名の新規利用者を迎え、利用者38名、有期契約職員含め職員15名の体制でスタート。

年度途中の変更として、生活介護利用者2名が同法人事業所であるホームあらしやまへサービス変更による退所、就労継続支援B型利用者2名が生活介護へのサービス変更となる。職員は10月に1名異動で増員された。

障害者総合支援法の理念に基づく多機能型事業所として計画立てて参りましたが、令和2年度より続くコロナ禍の影響を大きく受けながらも下記の通り実施。

・就労継続支援B型

作業活動としては箱折り、陶芸、製菓、喫茶、縫製、織物の作業に加え8月より修道洛東園館内の清掃作業が加わった。

主力である紙工作業は令和2年度同様コロナ禍による作業量の減少の影響を受けたが、一方で委託販売先の拡大や清掃作業等の新たな作業開拓を展開した。

・生活介護

生活介護プログラムとしては、外部講師を招いてのゆとりメニューに加え、職員による対応の充実を図る事で、利用者の暮らしのゆとりを考えてきた。内容は次第に充実してきたが、次年度更なる充実を目指して継続して検討をしていく。

(1) 利用者の状況

① 定員および在籍数 2022年3月31日現在

	定員数	現員数
生活介護	14人	19人
就労継続支援B	21人	19人
計	35人	38人

② 年間利用者数 (平均利用率 生活介護 103% 就労継B型 77%)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
月初人数	生活介護	17	17	17	17	15	15	15	15	16	17	18	19	15
	就労B	21	21	21	21	21	21	21	21	20	19	19	19	20.4
	計(A)	38	38	38	38	36	36	36	36	36	36	37	38	36.9
通所 日数	最高	22	18	22	21	20	20	22	22	21	19	18	23	20.6
	最低	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月延人数		672	602	754	687	610	612	665	625	614	542	538	710	635.9
日利用数(B)		30.6	33.4	34.2	32.7	30.6	30.6	30.2	28.4	29.3	28.5	29.9	30.8	30.8
開所日数		22	18	22	21	20	20	22	22	21	19	18	23	20.3
通所率(B÷A)		80.5%	90%	90%	86%	85%	85%	84%	79%	82%	79%	81%	81%	83.7%

③ 年齢構成

	～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	計	平均年齢
生活介護	1	3	2	2	6	4	1	14	47
就労B型	3	9	4	3	2	0	0	24	32
計	4	12	6	5	8	5	2	38	39.5

④ 在籍状況

	～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	計	平均年数
生活介護	3	3	1	1	2	3	19	24.2
就労B型	5	5	7	6	2	0	19	17
計	8	8	8	7	4	3	38	20.6

⑤ 療育手帳取得状況

	A	B	計
生活介護	15	4	19
就労B型	15	4	19
計	30	8	38

⑥ 障害支援区分状況

	1	2	3	4	5	6	未認定	計
生活介護	0	0	4	7	8	0	0	19
就労B型	0	2	7	5	5	0	5	19
計	0	2	11	12	3	6	5	38

⑦ 就労継続支援B型 2021年度平均工賃(京都市B型工賃補填含)

総支給人数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均年間工賃額
220人	16,335時間	2,549,990円	11,841円	127,499円
参考 2019年度	平均工賃月額	11,913円	平均年間工賃額	142,956円
2020年度	平均工賃月額	6,873円	平均年間工賃額	82,476円

➤ 参考 2021年度就労継続支援B型報酬区分 ¥10,000～¥15,000区分にて確定

(2) 活動実績

① 作業内容

	作業班	作業内容	製品
受注	紙工	紙箱（トムソン箱）	八ッ橋他の菓子箱 小豆の選別
	修道洛東園	清掃作業	
自主	テキスタイル （織物・編物）	織り・刺し子・絵・染め 機械編み・手編み	織り・刺し子（ふきん） 機械編み（靴下他） 手編み（菊ざぶとん、アクリルたわし他）
	製菓	クッキー・他	クッキー・マドレーヌ・パウンドケーキ
	ペーパークラフト	紙製品・	紙製品（名刺、はがき、便箋、ぽち袋他） 絵（カード、カレンダー他）
	陶芸（生活）	手びねり・石膏型	オブジェ（カエル作品、花器他）
	陶芸（就労B）	型もの・アクセサリー マグネット	食器（皿、器、他）ろうそく立（下請） アクセサリー（ブローチ、イヤリング）
	喫茶 カフェなづな	接客 パン販売（火・木・金）	コーヒー（コロコロ）・紅茶 かしの木製造パン 工房ソラどら焼セット 小豆アイス・くずきり・他 季節限定メニュー パスタ

(3) 年間行事実施状況

年間行事は地域の行事は殆どが中止、延期となったが学園行事は旅行、お茶会を除いた全て、縮小、感染予防を行う中で実施。

余暇支援（いきいきサタデー）は4月、7月、8月、11月、2月の5回実施

職員研修等も外部は概ねWEB受講となる。

(4) 設備改修、備品等の取得状況

区分	内容	対応	金額（円）
備品等	カフェ用レジ コーヒーメーカー	ビックカメラ	¥101,010
		ヨドバシカメラ	¥228,000
改装等	エアコン修理（1台分）	洛東電気	※うち120,000円 京都新聞社助成金あり
設備・備品整備	館内産業廃棄物処理		¥85,800
		フロムメンテナンス社	¥110,550
合計			¥525,360

2. かしの木学園

(1) 令和3年度当初は就労継続B型に3名の利用者を迎え、利用者61名、常勤職員16名でスタートした。あらしやまの事業所開所に伴い、5月から段階的に7名が移籍。年度内の新規利用は、就労移行は1名、就労継続B型は2名を迎えた。退所は、就労移行は就職により1名、就労継続B型は1名、生活介護は3名。年度末の利用者数は52名となり利用者の増減の大きい年だった。

新型コロナウイルス感染症の影響で在宅支援の期間や休園の時期もあり、コロナウイルスへの罹患者は職員2名、利用者5名であった。利用者にとっては昨年に続き未曾有の不安、職員にとっても緊張が続いた1年間でした。

多機能型事業所として個別支援計画をもとに、下記の通り実施。

新しい事業としては、すずしろ給食提供サービスの開始や週1回のカフェの運営、パンの委託販売を展開した。

・生活介護事業

作業活動に参加するとともに、利用者の生活に癒しと意欲、健康増進を図る生活介護活動を希望選択制で実施。作業活動として陶芸、縫製、箱折、各種受注作業等を実施。

生活介護活動として、アート、音楽、運動、足湯、散歩等を実施。

・就労継続支援B型事業

作業活動と社会参加活動の融合で、自立と生き甲斐のある生活ができることを支援目標として取り組んだ。作業活動としては、パンの製造販売、コーヒー焙煎販売、箱折、各種受注作業、給食提供サービス、週イチカフェを行う。パン作業は委託販売の受注を受け令和元年度の売り上げ以上の収益があった。紙器加工、陶芸、縫製は令和元年度の売り上げまでに届かないものの回復の傾向が見られた。

・就労移行支援事業

清掃作業をなづな学園に移行し、1月からは拠点をかしの木学園とすずしろに移して活動を実施。活動内容は、給食提供サービスと週イチカフェ、ATM清掃、一般就労に向けた各種研修・実習。関連機関と連携を基に取組みを進めていく。令和3年度の一般就労者は1名。

(2) 利用者の状況

① 定員および在籍数

	定員	在籍数 (R4. 3. 31)
生活介護事業	26	24
就労継続支援B型事業	23	25
就労移行支援事業	6	3
合計	55	52

② 年間利用者数の推移

令和3年度

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
初 人 数	生活介護	31	30	26	26	26	26	26	26	25	25	25	24	26.3
	就労B型	27	25	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25.1
	就労移行	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3.7
	計(A)	61	59	54	55	55	55	55	55	54	53	53	52	55.1
通 所 日 数	最高	20	18	23	20	20	20	21	21	21	19	18	24	20.4
	最低	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1日平均 利用者数(B)		56.9	52.6	50	51.4	49.5	50.9	52.7	47.7	48.7	46.2	48.2	43.7	49.9
開所日数		20	18	23	20	20	20	21	21	21	19	18	24	20.4
通所率%(B÷ A)		93%	89%	93%	93%	90%	93%	96%	87%	90%	87%	91%	84%	90%

③ 年齢構成

(人) 令和4年3月31日現在

	～20歳	21～30	31～40	41～50	51～60	61～64	65～	計	平均
生活介護	1	3	5	6	4	0	5	24	48
B型	1	11	4	2	4	0	4	26	38
就労移行	0	1	1	0	0	0	0	2	29
合計	2	15	10	8	8	0	9	52	42

④ 在籍年数

(人) 令和4年3月31日現在

	～5年	6～10	11～20	21～30	31～40	41～	合計	平均
生活介護	2	2	7	7	2	5	25	27
B型	13	4	2	2	2	1	24	12
就労移行	3	0	0	0	0	0	3	2
合計	18	6	9	9	4	6	52	18

⑤ 障害支援区分状況

(人) 令和4年3月31日現在

	1	2	3	4	5	6	未判定	合計	平均 区分
生活介護	0	0	0	12	10	2	0	24	4.6
B型	0	1	1	11	3	0	9	25	2.7
就労移行	0	1	0	0	0	0	2	3	
合計	0	2	1	23	13	2	11	52	

⑥ 療育手帳取得状況 (知的障害の程度)

(人) 令和4年3月31日現在

	A	B	計
生活介護	24	0	24
B型	12	13	25
就労移行	1	2	3
合計	37	15	52

A：最重度、重度 B：中度、軽度

(3) 活動実績

① 就労 (授産) 作業の状況

作業	作業・製品
清掃	東山洛東園の清掃、 駅ATMの清掃、給食提供サービス・カフェ業務
陶芸	かわらけ、湯呑、皿、箸置、カップ等の製作
受注	菓子箱、各種箱の箱折、その他
縫製	くまちゃんポーチ、一本歯下駄の鼻緒の製作、その他
パン	各種パンの製造・販売 喫茶営業、委託販売
珈琲	オリジナルコーヒーの焙煎、豆・ドリンク販売

② 利用者工賃 (令和3年度)

単位：円

種別	支給回数	支払額			合計
		生活介護	B型	就労移行	
給料	各月	1,431,410	2,213,510	1,209,252	4,854,172
賞与	夏、冬、決算	196,850	291,800	120,942	609,592
全利用者年間総額		1,628,260	2,505,310	1,330,194	5,463,764
1人	年間平均額	43,620	83,280	106,476	105,072
1人	月平均額	3,635	6,940	28,557	8,756

(参考)

単位：円

	支払総額	1人年間平均額	1人月平均額
28年度	6,943,246	128,579	10,715
29年度	7,193,732	130,795	10,900
30年度	7,578,995	135,339	11,278
R元年度	8,629,708	154,102	12,842
R2年度	4,809,709	82,926	6,911
R3年度	5,463,764	105,072	8,756

(4) 年間行事、防災訓練、健康・衛生管理、会議、職員研修等の実施状況

年間行事は11月に学園旅行、ワイワイひろば（まん延防止、緊急事態宣言期間は中止）、ハイキングを実施。なづなかしの木交流行事は中止。

防災訓練は年4回実施。

内科検診・歯科検診は中止

コロナワクチンのみ希望者は接種

会議は毎週水曜16時から職員会議、土曜日に勉強会を数回を実施。

職員研修等も外部研修は概ね中止延期となった。

3. サービスセンターふらっぷ

1. 概況

令和3年度の事業については、実利用者数は介護保険利用者のホームあらしやまへの移動及び移動支援等利用者等の他所移動で129人と前年度より6名減少した。支援時間についても、コロナ禍による活動自粛の延長、利用者ご本人の入所施設へのご入居、ご家族の高齢化、ヘルパー不足等により、支援時間の減少となった。

職員は常勤8名と非常勤2名、登録ヘルパー16名の組み合わせによりスタート。年度当初より1名の休職、6月末に職員1名の異動となり6名体制でした。登録ヘルパーについては、年2回のガイドヘルパー講習会后、6名の新規登録がありました、活動を休停止されるヘルパーもあり、昨年度からのヘルパー活動時間の増加には至らなかった。

(表 利用者数、職員、ヘルパー推移 括弧は兼務)

年月	利用者数	65歳以上 利用者数	常勤職員	委託職員	登録ヘル パー	行動援護受 講者累計
R1年度	142	17	9	2	18	15
R2年度	135	16	10	2(1)	16	20
R3年度	129	19	8	2(1)	16	24

① 利用者の高齢化・重度化

高齢化、重度化する利用者への生活支援のあり方、利用者の家族の諸事情に起因する生活を共に支えていく家庭機能の低下に伴う支援のあり方等について、職員及び登録ヘルパーの介護スキルの向上が喫緊の課題。又、発達障害等多様化する利用者への支援についても、知識、支援スキル習得が必要と考える。介護技術や業務スキルの取得研修に加え、発達障害等の行動援護従事者研修についても行動援護従事ヘルパー全員の受講を実施していく。

② ヘルパー確保体制

学生ヘルパーの卒業、登録ヘルパー高齢化によりヘルパー確保が必須と考える。昨年度に引き続いて就職情勢が厳しい状況ですが、ガイドヘルパー講習での育成、新規募集に加えて、新規ヘルパーの導入手順の見直し、SNSを活用した募集の方法、有料紹介サイトの活用や処遇面の制度改訂など含め検討を重ねていく。

③ ICT利用による業務効率化

利用者情報や職員情報・契約情報の法人DB(kintone)へ移行及び、個別支援計画、手順書、チェックリスト、各種会議議事録等の電子化・共有化を行う。支援配置や請求処理については専用ソフト(ヘルパーアシスト)を活用し、特定事業所加算の維持にむけた業務運営を実施。今後は勤怠管理や研修管理、ヘルパー会議といった業務についても効率的に実施できるように業務フローの見直しを含めてICT利用をさらに進めていく。

2. 令和3年度の事業数値

① 利用者の重度化が進んでいる。(行動援護で86%→89%)

- ・年齢構成：65歳以上の方19名(全体の14%)
- ・介護保険(訪問介護)についてははずしろ・あらしやまへの移動があり減少

- ・コロナ禍が2年続いたことで移動支援主に全体支援時間の減少が鈴いている

② サービス提供時間数(時間/月)

- ・日中支援利用先：法人なづな関連事業所の利用が5割～6割。
- ・法人内事業所ではグループホームの支援が支援時間数、全体的に減少。
コロナ禍とすずしろができたことで移動されたことが要因。(表参照)
- ・新規の利用者申込を法人内外から頂いているが対応できる技能を持つヘルパー不足からほとんど対応出来ていない。

(表 サービス別支援時間/月 重度は障害支援区分5, 6の方)

年度	月支援時間	居宅介護	行動援護	重度訪問	移動支援	訪問介護
R1年度	1749.4	250.4	448.1	15.8	1008.4	33
重度	820.3	116.1	300.6	15.8	366.7	25.7
比率	46.9%	46.3%	81.8%	100%	29.8%	77.9%
R2年度	1485.1	253.3	380.4	12.2	814.8	32.8
重度	736.3	128.1	328.6	12.2	249.8	24.5
比率	49.5%	50.6%	86.4%	100%	30.7%	74.9%
前年比	87%	86%	92%	53%	87%	60%
R3年度	1291.3	217.5	358.4	6.3	712.3	19.5
重度	611.8	93.7	309.2	6.3	191.5	18.6
比率	47.4%	43.1%	88.6%	100%	30.7%	95.3%
前年比	93%	102%	88%	53%	92%	62%

3. 課題と業務振り返り

- ・利用者や家族のニーズに応え、満足度や評価を高める
- ・個別の利用者ニーズに寄り添いながら支援を進め、クレーム数は2件に抑えることができた。
- ・加齢により新たな難しさが出てきた利用者へも、ご家族やGH担当者とのコミュニケーションをとりながら、その方の体の調子に合ったペースを提案するなど、柔軟に対応することができた。
- ・ヒヤリハット報告書について、報告数を増やす目的で電子型書式を試験実施中。分析と全ヘルパーへの共有も引き続き検討中。
- ・次年度も引き続きコロナ禍での支援が予想されるが、個別外出、居宅支援ニーズ等の掘り起こしや再確認も含め、学園・ホームを含め利用者・家族の希望に沿えるように工夫を重ねる。

4. 利用者支援の質を高める

- ・介護労働安定センターの協力を得て、介護技術スキル取得研修を昨年度から月1回法人職員及び世話人、登録ヘルパー対象に実施。課題である高齢利用者への直接処遇に関わる内容を中心に。対象はふらっふ職員、ヘルパーに加えて、法人内職員世話人に拡大して毎月計12回実施。
- ・「知的・精神障害者移動支援従業者養成研修」は、6月と11月の2回計画通り実施。

昨年に続き多数の応募があり、各回抽選にて受講者数を決定。ただし、ふらっぷ活動に於けるヘルパーの確保という意味では各回1～3名の増加にとどまり、やめるヘルパーもあり、ヘルパー増を果たせていません。また、講師の資格要件から、ふらっぷで講師確保は難しく今後は外部講師への依頼も含めて法人全体での研修実施を進めていく。

5. 職員、登録ヘルパーの働きやすい環境を整える

10月に時給改訂を実施した。広報誌によるヘルパー募集については、成果は得られなかった。時間帯や地域、年齢層などを絞って募集を継続し、活動ヘルパー数増へ繋げていく。

6. 他機関連携

他事業所との共通利用者についてサービス関係者会議への参加、情報交換の機会を頻度高く持つことができた。

4. わかな

1. 概況

放課後等デイサービス事業所「わかな」は、昨年度は途中退所および卒業者は、おられず新規契約4名（年度途中含む）の追加のみとなる。

コロナの影響はあったものの昨年度よりは少なく、スポット利用希望にも可能な範囲で受け入れ、提案を行い、昨年度の利用数減から転換することができた。

集団プログラムについても目的や目標の設定を行ない、支援取り組みに関しての見える化を図った。

2. 利用者の状況（令和4年3月末日現在 契約者数 29名）

年齢	R1	R2	R3
小学生	15	15	15
中学生	10	2	5
高校生	7	8	9

男女比	R1	R2	R3
男児	21	21	21
女児	11	4	8

学校別	R1	R2	R3
西総合支援	13	12	13
他支援学校	4	3	3
地域学校	11	10	10

利用頻度	R1	R2	R3
週1	16	9	9
週2	8	7	7
週3	6	9	13
週4	2	0	0

まとめ	R1	R2	R3
延べ利用数	2352人	2117人	2516人
開所日数	301日	299日	305日
1日平均	7.8人	7.0人	8.3人

3. 重点課題の振り返り

（1）支援員の知識や技術の向上を図り支援の質を高める

まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の期間中は、集合型研修は控え、オンラインツールによる支援に役立つ知識等の情報共有を行いました。今後は効果測定が課題。

（2）利用者への支援の質と満足度の向上を図る

- ・外部機関との連携（サービス関係者会議への参加）
- ・新規プログラムとして、編み物教室、アロマテラピーを検討中
- ・保護者と定期的（年2回）に懇談し、感染対策の為、対面、リモート面談等で実施。

(支援プログラム)

- ・音楽療法：月1回（第3木曜）JEUGIAより派遣
- ・個別療育：それぞれの個別課題に合わせての療育。宿題サポート。
- ・作品展：12月なづな展（みやこメッセ）、3月にわかな展（右京ふれあい文化会館）実施。
- ・他法人事業所（NPO法人明日堂あしたば、あっとわと）との月1回連携活動の継続実施

(3) 業務内容の見直しと作業効率化

- ・非常勤スタッフにもケース担当を振り分け、検討を進めた。
- ・情報共有ツール（LINEWORKS、kintone）の積極的な活用で、スタッフ間の連携強化に繋がっている（外出プログラム時、ケース記録、個別情報）。
- ・連絡ノートの電子化は未達

(4) 収益の拡大

- ・昨年度から1.3人平均利用者数を拡大することができた。要因は2つ、1つは保護者のコロナ禍に対する認識が緩くなったこと。もう1つは、追加希望の利用者の受け入れを積極的に進めた事。
- ・早めの受け入れニーズは、シフト調整の範囲の中で個別に対応を実施。

(5) 広報活動

- ・Facebookはほぼ使用せず、ブログのみ週1更新で日々の過ごしをアップしました。保護者から更新頻度を高めてほしいとの要望があり、応えられるよう整備したいと考える。

(6) 研修

- ・虐待研修、防災に関する研修、ペアレントトレーニング、子どもの権利条約等勉強会
- ・避難訓練：各曜日1回ずつ支援中を想定して実施、マニュアルの見直しは未実施。

5. グループホーム

(1) 概要

※1 ホームイーストとはホームなづなとホームななくさをまとめた名称で会計上の拠点区分に対応。

※2 ホームウェストとは現在はホーム花園の一部の名称で会計上の拠点区分に対応。

これまでの懸案だった利用者の高齢化、重度化、に特化したホーム嵐山がスタートし、ホームかしの木・花園・なづなの該当する利用者にとっては待望の入居となる。

コロナ対策は全員3回のワクチンを接種するなど、断続的に陽性者が出たもののクラスターは免れ比較的冷静な対処ができた。直面して初めて実感に基づいたBCPの作成に現在取り組んでいる。

ホームイーストは土地探しが難航しているうえに単なる移築ではなく近い将来を見据えどのような対象者を考慮したホームにすべきかが今後の課題。

ホームウェストのやまのうちの利用，ホーム花園の空室の利用については考慮中。

ホーム利用者状況

令和4年3月31日現在

事業所名	定員	利用者数	年齢構成								障害支援区分					
			20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均	2	3	4	5	6	平均
ホームなづな	7	7	0	1	1	4	1	0	0	51	0	2	4	1	0	3.9
ホームななくさ	4	4	1	0	0	0	3	0	0	55	0	0	2	2	0	4.5
かしの木ハウス	4	4	0	0	1	0	1	2	0	65	0	0	3	1	0	4.3
ホームやまのうち	4	4	0	0	0	1	0	2	0	62	0	0	1	2	1	5.4
ホーム花園	9	5	0	1	2	2	0	0	0	48	0	1	3	0	1	4.2
合計	20	16	1	2	3	6	4	3	1	56	0	3	7	7	1	4.5

平均利用者数・区分・稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	区分	稼働率
ホームなづな	6.8	6.3	6.7	6.2	6.6	6.5	6.7	6.7	6.3	6.3	6.7	6.8	6.5	3.9	92%
ホームななくさ	3.4	3.4	3.5	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.2	3.5	3.5	3.4	4.5	86%
かしの木ハウス	4.0	3.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4.3	100%
やまのうち	3.3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.1	5.3	77%
ホーム花園	7.9	6.2	7.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.3	4.0	4.8	4.5	4.4	4.2	78%
合計	25.4	21.8	17.4	14	14	14.3	14.4	14.3	14	13.5	15	14.8	16	4.5	87%

(2) 支援の状況

① 日常生活支援

- ・個別支援を原則として、高齢化の進む利用者への対応（通院・体調管理）に力を入れ利用者が安心、且つ寛げるホームをめざしているがやまのうち・花園の一部は“嵐山”という理想的なホームが完成し入居者は快適な環境での生活が開始。
- ・ホームイーストと花園の平均年齢は比較的若返ったがが数年後に迫る高齢化に備え、体調管理が中心の日常である。世話人は熟練パワーを発揮されているが今後難しくなると考える。

② 余暇活動支援

- ・余暇の充実を図るため、利用者の意向を踏まえた情報提供を心掛け、移動支援サービス利用がスムーズにいくための体調管理、服装、おこずかいの準備などを行う。
- ・最近利用者の中には予定された支援が難しくなりそれぞれの状況に応じた支援を必要とされる方が出て来ている。
- ・連休などで利用者が少ないときは世話人とのホーム付近の散歩等実施。

③ 家族との連携

- ・ご家族の高齢化、利用者の重度化が進みご家族との連携と言えば体調管理が中心で、当初のコロナ対策ではクラスターを防ぐため各ご家庭と相談の上帰宅可能者要請などをお願いした。しかし予防に力を入れコロナ対策の充実に伴い帰宅せずホームで対応する余裕ができてきている。
- ・行政からの補助もあり十分なコロナ対策を行いホームでの生活の安全性が確保されご家族には安心して頂いている。

④ 地域住民との連携

- ・ホームによっては家が立て込んでおり、迷惑をかけていることが多いが近隣住人へは積極的に声掛けをするなどして地域との関係は大切にしている。併せて、コロナ禍で町内の行事などには参加出来なかったが、地域との関係が希薄にならない様、常日頃注意している。

⑤ ヘルパー利用

- ・支援がコロナで縮小されているがコロナ対策を踏まえ、形を変え支援に工夫して頂き、利用者の暮らしを支えて頂いた。

⑥ ホームスタッフ

- ・ウェストはITが進み記録は直接キントーンに打ち込まれていますが、イーストは日々の業務・利用者支援の内容をグループラインで情報共有し業務日誌の内容はキントーンに転載している。
- ・スタッフの高齢化が進んではいるが熟練パワーの活用と若返り対策を平行して行う。
- ・ヒヤリハットについては業務中のミス等、情報の共有化を充分でないが図っている。

⑦ 研修

- ・イーストでは虐待研修を受けた世話人により世話人会で発表してもらいそれぞれの世話人の意見を交換し認識を深めた。
- ・防災については防災消防署立ち合いの訓練を久しぶりにを行い防火設備について再確認。
- ・地震については震度4前後の地震がありその怖さを体験し等避難グッズ。各部屋の環境整備、避難備蓄、避難備蓄用の倉庫の設置等を行う。

⑧コロナ対策

マスク・消毒用アルコール・空気清浄機・デジタル温度計から始まりコロナ発生時に備えての備品調達は国からの十分な補助により、世話人の皆さんも十分に意識を高めて頂いている。ワクチンも浸透していますが、強力な新型の登場等まだまだマスク消毒は手放せない状況が継続している。

(3) 設備・備品・修繕等の整備状況

円

事業所名	内 容	金 額
ホームイースト	換気扇交換	57,670
	洗濯機修理	10,230
	除湿機	25,600
	照明器具・掃除機修理	14,750
	シャワー取付	45,760
	風呂リモコン修理	25,520
	風呂釜修理	21,120
	エアコンクリーニング	6,380
	炊飯器	12,800
	備蓄用倉庫	21,950
	スチールラック	13,630
	避難用備蓄	53,830
計		309,240
ホームウェスト (かしのきハウ設備ス 取外し)	防災設備	65,340
	スプリンクラー	773,900
	水道管改造	562,165
計		1,401,405
ホーム全体		1,710,645

6. ホームあらしやま

(1) 令和3年度は5月7日にかしの木ハウス・ホームやまのうちを閉鎖及び引越しを行い、8名の利用者のホームあらしやまでの新生活が開始。すずしろは5月10日より開始。6月に3名、7月に5名、8月に2名、11月に1名が入居・通所（一部利用者通所先はこれまでの通所施設へ通う）となった。

10月より短期入所（ショートステイ）開始。

(2) 利用者の状況

① 障害認定区分

障害認定区分	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	0名	4名	10名	5名

② 介護認定区分

介護認定区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	2名	2名	0名	2名	1名

※介護認定未実施または把握していない方数名あり

③ 年間利用者数の推移（ホームあらしやま）

令和3年度

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
区分4	2	2	5	5	4	4	4	4	4	4	4
区分5	6	6	7	8	8	10	10	10	10	10	10
区分6	3	3	4	4	5	5	5	5	5	5	5
人数	11	11	16	17	17	19	19	19	19	19	19
平均人数	10.1	10.1	14.3	15.5	15.7	16.5	17.2	17.6	17.3	15.6	17.6
平均区分	5.0	5.0	4.9	4.9	5	5	5.1	5.0	5.0	5.0	5.0
稼働率	50%	50%	71%	77%	78%	82%	86%	88%	86%	77%	88%

(ショートステイ)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	1名			1名		3名
利用日数	4日			6日		11日

④ 年齢

50代	60代	70代	80代
5名	7名	6名	1名

⑤ 食事提供形態

ミキサー食	1名
ムース食	1名
刻み食	2名
一口サイズ等カット食	3名
普通食	12名

⑥ 主な関係医療機関

歯科	井上歯科・吉岡歯科
訪問診療・総合内科・健康診断	中尾クリニック
救急	民医連中央病院・桂病院

(3) ひやりハット・事故報告

転倒・転落	8件	
誤薬・誤嚥 またはその危険性	4件	
破損等	2件	利用者によるもの
他者への他害行動の危険	1件	

(4) 生活

① 過ごし方

一日の生活の大まかな流れ

6:30 起床 バイタルチェック (血圧・検温)

7:00 朝食

8:30 すずしろへ通所 (土日・祝・年末年始・お盆以外)

15:00 ホームへ戻る バイタルチェック (血圧・検温・酸素濃度)

入浴順次 (週3回/人)

18:00 夕食

21:00 消灯・就寝

(0:00、5:00巡回)

② 費用

・個人負担金 = 家賃、光熱水費、食費、日用品費等 (単位:円)

家賃 (月額)	47,000円
維持費・共益費 (月額)	2,500円
朝食	210円
昼食	420円
夕食	530円
敷金 (入居時のみ)	200,000円
日用品	実費

※家賃1万円の特別給付費が有り。

(5) 年間行事、防災訓練、健康・衛生管理、会議、職員研修

避難訓練	0回
世話人会	毎月2回にわけて実施
研修	職員研修（介護労働安定センターによるもの）

(6) 業者委託

リネン	小山商会
消防点検	洛東電気
エレベーター	三菱日立
ゴミ回収	フロムメンテナンス
LPガス	ウェルビー京都
電気	関西電力
食材配達	ヨシケイ・生協

7. すずしろ

(1) 令和3年度は5月7日にかしの木ハウス・ホームやまのうちを閉鎖及び引越しを行い、8名の利用者のホームあらしやまでの新生活が開始。すずしろは5月10日より開始。6月に3名、7月に5名、8月に2名、11月に1名が入居・通所（一部利用者通所先はこれまでの通所施設へ通う）となった。

6月よりかしの木学園による給食提供開始。

10月より短期入所（ショートステイ）開始に伴いすずしろ通所受け入れ開始。

・生活介護事業

利用者の生活にメリハリと季節に応じた活動、健康増進を図る生活介護活動を実施。

体操、散歩、調理、創作活動、音楽療法、外出支援を毎月月間単位で予定をたて実施。作業活動も当初は計画をしていたが、実施は出来なかった。（人力的理由・利用者の作業スキルとして困難）。

(2) 利用者の状況（ホームあらしやま入居者含む）

① 障害認定区分

障害認定区分	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	0名	4名	10名	5名

② 介護認定区分

介護認定区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	2名	2名	0名	2名	1名

※介護認定未実施または把握していない方数名あり

③ 年間利用者数の推移

令和3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	0日	16日	22日	20日	20日	20日	21日	20日	20日	18日	18日	22日
区分4		1人	1人	3人	4人	3人	2人	2人	2人	3人	3人	2人
区分5		5人	6人	6人	6人	6人	8人	8人	8人	8人	8人	8人
区分6		1人	3人	4人	4人	4人	5人	5人	5人	5人	5人	5人
実人数計		7人	10人	13人	14人	13人	15人	15人	15人	16人	16人	15人
平均利用者数		6.8人	7.9人	10.8人	12.2人	11.7人	12.9人	13.9人	14.0人	14.4人	12.9人	13.5人
平均区分		5.0人	5.1人	5.1人	5.1人	5.1人	5.2人	5.3人	5.2人	5.2人	5.1人	5.2人
稼働率		34%	39%	53%	61%	58%	64%	69%	70%	72%	64%	67%

④ 年齢

50代	60代	70代	80代
5名	7名	6名	1名

⑤ 食事提供形態

ミキサー食	1名
ムース食	1名
刻み食	2名
一口サイズ等カット食	3名
普通食	12名

⑥ 主な関係医療機関

歯科	井上歯科・吉岡歯科
訪問診療・総合内科・健康診断	中尾クリニック
救急	民医連中央病院・桂病院

(3) ひやりハット・事故報告

転倒・転落	8件	
誤薬・誤嚥 またはその危険性	4件	
破損等	2件	利用者によるもの
他者への他害行動の危険	1件	

(4) 年間行事、防災訓練、健康・衛生管理、会議、職員研修、実習生受入等の実施状況

避難訓練	2回（地震・火災）
職員研修	キャリアパス研修 職員研修（介護労働安定センター） サビ管研修 相談支援 虐待防止研修 管理者層研修
職員会議	月2回程度
職員健康診断	工場保健会（7～9月）
実習・研修生受け入れ	3月 大谷大学、京都府立大、法人職員 計3名

8. 計画相談支援

1. 概況

事業の運営に当たっては、市町村障害福祉サービス事業者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善、開発に努めた。利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な障害福祉サービス等が多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮した。

職員体制としては常勤兼任10名、非常勤兼任1名（なづな2名・ふらっぷ2名・わかな1名・かしの木4名・グループホーム2名）で当初スタートしたが、7月に管理者5名の担当を外し、新しく新人3名を配置、計9名体制となった。

2. 事業数値と課題について

(1) 年度当初の契約利用者数は114名であったが、年度中に4名の契約者増（内3名は令和4年度からの利用者）、1名の契約者減があり年度末には117名の利用者となった。なづな学園事業所の利用のない契約者については、現在通所されている事業所等へ移転が可能な案件についての契約の移転を進めている。

(2) 専任職員が不在となったことで担当者の業務負担にならないよう、担当利用者数の適正化を図り、支援情報の電子化共有化（Kintone）を推し進めまし。また会議は電子会議室（Desknets）やオンライン会議（ZOOM）の有効活用で時間短縮に努めた。

令和4年3月末現在

	なづな学園	かしの木学園	すずしろ	その他	合計
契約利用者数	34名	56名	14名	13名	117名
再計画実施数	32件	44件	12件	12件	100件
モニタリング実施数	15件	23件	1件	9件	48件